

北野^{きたの}は王城^{わうじやう}の北西の方なり、天曆年中に聖廟^{せいべう}をうつし、洪々たる宮社をいとなみしより、詣で来る人陰晴をえらばず行つたふさま、神威こゝにいちじるし。

北野の宮によみて奉りける

続後撰 くもるべきうき世の末をてらしてやあら人神は天降けん

慈 円

白川院の御ときあらざるほかの事によりて、御きそく心能らず侍ける時、唐鏡^{からのかぐみ}を北野の宮へ奉るとて、かぐみのうらにかきける、

続古今 身をつみて照しをさめよます鏡たが偽もくもりあらずば

顕 輔